

牧草秋播きの好季を迎え、より有利な草地造成のための「牧草混播」に対する記事の希望が増加しておりますので、放牧地と採草地に分けて、主として各地の事例の二、三を紹介することといたしました。

(編集係)

牧草の混播について……その一

放牧地の混播

長谷部征宏

今日飼料作物の生産には、二種類またはそれ以上の種類を混作することが、かなり広く行われてきつあり、特に牧草混播の必要であり有利なことは各研究機関により数多く発表され、本紙により紹介もされております。(牧草と園芸三巻十一号)

從来牧草地の造成は牧草の種類、利用目的、土壤条件、その他を考慮することなく行われてきましたが、わが国の酪農の現状をみると、どうしても合理的な飼料の生産を行わなければ酪農の安定する道は遠いと思いま

混播事例について二、三の概要を紹介いたします。

(一) 集約草地とラデノクロバー

集約草地の合理的な利用法、高度化によつて飼料面積と労力を節約し、しかも乳量を増加させことが出来る草があるとすれば、それは近年欧米諸国は勿論わが国においても非常な勢で普及して来た「ラデノクロバー」であります。そして家畜を飼育するところでラデノクロバーを大なり小なり

第一表 草種の反当播種量
類
レ ピ ド ク ロ バ 一 (十字科越年)
イタリヤンライグラス (禾本科越年)
ラ デ ノ ク ロ バ 一 (禾本科永年)
オーチャードグラス (禾本科永年)
チ モ シ 一 (同)
混播 (撒布)

反当播種量
二〇〇瓦
三〇〇瓦
二〇〇瓦
一、〇〇〇瓦
二〇〇瓦
一一〇瓦

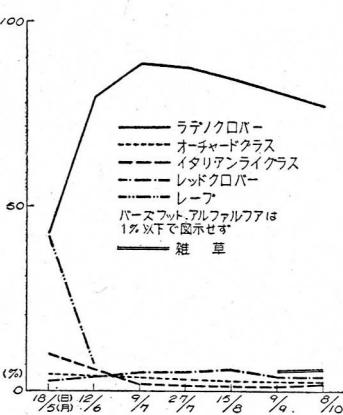
混播 (撒布)

(二) 单播の弊害

第一図 東北北部の繫牧地における草類の生育状況

如何なる牧草でも単播した放牧地では家畜の体によい影響を与えるはずはありませんが、ラデノクロバーが集約地造成の条件に最適であるといつても、単播では混播の利点が全く失われるといつてもよいのであり、家畜に悪い影響(例え過食による鼓脹症)を与え、又経済的に不利となることは、養分の不釣合、肥料養分の利用度が少い、等なるわけあります。

第一表のような混播を実施しております。播種後四年目において牧草類の生育経過を考察してみますと、第一図に示すように、ラープ、イタリアンライグラスが段々と衰えラデノクロバーの生育は上昇線を保ち優位であります。オーチャードグラスは再生力が強いので、ラデノに次いで優勢でありチモシー、レッドクロバー、バズフット、アルファルファ等は初期生育が悪く図の如く量的にも少くなり、誠に



第一表 東北地方におけるラデノクロバーの混播
類
ラ イ ム ギ 一 ピ
イタリアンライグラス
二〇〇～三〇〇瓦
早春用
保母作物として伸び過ぎの
時は秋刈取る

第二表 東北地方にすすめたい混播例 (東北農試)

類	反当播種量	利
ラ イ ム ギ	一〇〇～二〇〇瓦	保母作物として伸び過ぎの 時は秋刈取る
イタリアンライグラス	二〇〇～三〇〇瓦	早春用
オーチャード	三〇〇～四〇〇瓦	後年までラデノと混播食
ラ デ ノ ク ロ バ 一	五〇〇～一〇〇瓦	主体をなす牧草

第二表 東北地方にすすめたい混播例 (東北農試)

割合を第二表のようになります。

2

北海道におけるラデノクロバーの混播相手に関する調査

(収量と豆科、禾本科の割合)

混播

(弊社上野幌育種場成績)

主として放牧用ラデノクロバーの混播相手作物に関する調査

手作物に関して調査しようとして反当ラデノクロバー禾本科牧草各一封度死を用いて今後三年目においては、今年で播種後三年目になります。調査成績は第二図に示してあります

が、本調査の結果ではラデノの混播相手として優れているもの

は、一、二年目

は草生の構成割合、收量からみ

てペレニアル、

メドウフェスク

ク、二、三年目

はオーチャード

グラスとなり、

二年更新の場合

はペレニアルラ

イグラスを、三、

五年の長期利用の場合は更にオーチャードグラスを混播した方

が有利であろう

と思われ、反当

第三表 放牧地用混播の組合せと利用上の要点

種 反当播種量 利用 上の要點

草 スムーズブローム 一・五 听

ラデノクロバー ○・二五

アルファルファ 二・〇

オーチャードグラス 一・五

ラデノクロバ 一・〇

クロベ 一・〇

ペレニアルライグラス 二・〇

メドウフェスク 一・〇

ラデノクロバ 一・〇

ク 一・〇

ペレニアルライグラス 一・五

ラデノクロバ 一・〇

ク 一・〇

排水良好な肥沃地、長期の利用に適す。過放牧を行えばアルファルファは圧倒される。

肥沃度中庸な土壤に適す。果樹園等の樹蔭下の放牧地の短期輪作体系への導入にも利用可能。

やや湿潤な土壤に適する。播種当年の收量を期待する場合は有利。

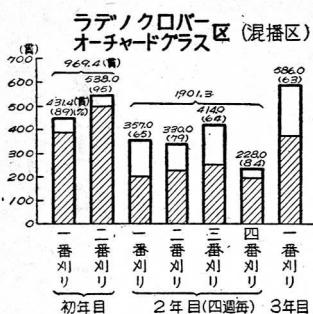
埴土及び埴壤土に適す。やや湿潤な土壤に生育する。播種当年からの收量を期待する場合又は鼓脹症の予防を考慮する場合等の利用可能。

短年輪栽放牧地に適する。短年放牧地を輪作体系中に組入れる場合の利用が可能。

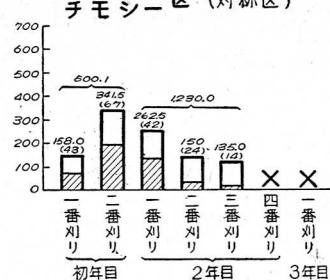
おります。初年目オーチャードグラス五一~一〇尺に条播、ラデノクロバ、イタリアンライグラスを撒播。二年目更にイタリアンを追播。この結果は播種翌年はイタリアン、ラデノが優占し、次年度も同様で、三年目にはイタリアンに代りオーチャードが繁茂。豆科と禾本科の混生が理想的に行われて来るということです。

以上集約放牧地に有利なラデノクロバの混播例を二、三引用させていただきますが、これらは牧草の種類、気候、土壤条件、栽培管理、あるいは種子の良否等によつて混播の方法は異なるのであります。このような複雑な要素を加味し、優良な集約草地を造成することは酪農の安定を早く進める鍵となるものと考えます。

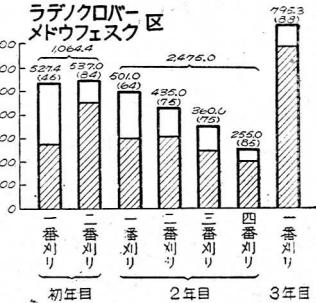
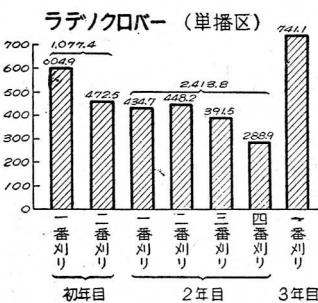
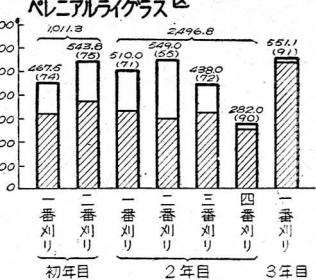
ラデノクロバー区(混播区)



ホクロバー区(対称区)



ラデノクロバー区(混播区)



は、一、二年目は草生の構成割合、收量からみてペレニアル、メドウフェスク、ク、二、三年目はオーチャードグラスとなり、二年更新の場合

はペレニアルラ

イグラスを、三、五年の長期利用の場合は更にオーチャードグラスを混播した方が有利であろう

と思われ、反当

が、本調査の結果ではラデノの混播相手として優れているものは、一、二年目は草生の構成割合、收量からみてペレニアル、メドウフェスク、ク、二、三年目はオーチャードグラスとなり、二年更新の場合

はペレニアルラ

イグラスを、三、五年の長期利用の場合は更にオーチャードグラスを混播した方が有利であろう

と思われ、反当

西南暖地におけるラデノクロバーの混播例

中國地方 岡山、広島県等においてもラデノクロバーの生育は頗る良好で大いに放牧地に利用されております。しかしラデノクロバーと恰好の競合をする禾本科牧草の選定に苦心しているのが現地の実態のようであり、岡山県酪農試験場ではこのため次のような方法をもつてラデノクロバーと禾本科牧草の適度な草生を保つようにして